

Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

～ グローバルな視野とローカルな視点からの学び ～

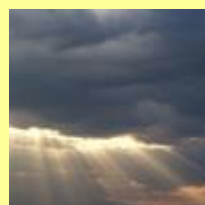
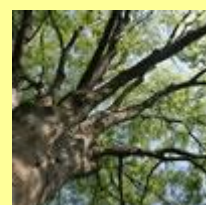
Newsletter No.12
2018.11.18.

〒730-0039 広島市中区袋町6番30号
広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックスNo.7
TEL 083-821-1111
FAX 083-821-1112
URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>
E-mail kyoikujuku_hiroshima@gmail.com

地球市民共育塾ひろしま



Have a Dream...
Do the Action!
for
the Better Future



世界中の人々が一人ひとり幸せに生きられる。そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」。取り扱うテーマも十人十色。「開発教育」に関心のある人なら、だれでも参加できます。参加型の学習会を定期的に行っています。

～ あなたも地球市民共育塾ひろしまで一緒に学びませんか？ ～



SDGs と開発教育

SDGs は、2030年を目途に国連が発表している持続可能な開発に関する目標です。

SDGs には目標として17項目があります。持続可能な開発、民主的なガバナンスと平和構築、気候変動と災害に対する強靭性など多岐にわたっています。これらのSDGsを達成するためには、複数の目標にまたがって多面的な取り組みが必要です。そのためには教育の重要性が指摘されています。

1960年代から始まった開発教育は、その当初から、世界の開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、私たちひとりひとりが、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとしてきました。

このように、開発教育は、まさにSDGsの目標達成のための教育活動としても位置付けることができると考えられます。



～共育塾定例学習会の紹介～

「魔法のシナリオとフィールドワーク」で参加型教材づくり

8月26日(土)に県立広島大学(広島キャンパス)で定例の学習会が県立大富田研究室と共催で開かれました。会場での参加者は6人でしたが、WEB会議システムを使ってさらに2名の参加がありました。

6月の学習会でとりあげた「デザイン思考で教材作り」の2回目です。前回から、デザイン思考における創造のプロセスを教材作りに当てはめることができるか試すことを目的にしていますが、今回は奥出直人氏の『デザイン思考の道具箱』(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)を参考に、「フィールドワーク」(聞き取り相互調査)によって「経験の拡大」と自分の「技術の棚卸し」を行い、それをもとに「魔法のシナリオ」(仮想ユーザーが教材を通して目標を達成するシナリオ)を書き、教材のプロトタイプをつくることを試みました。

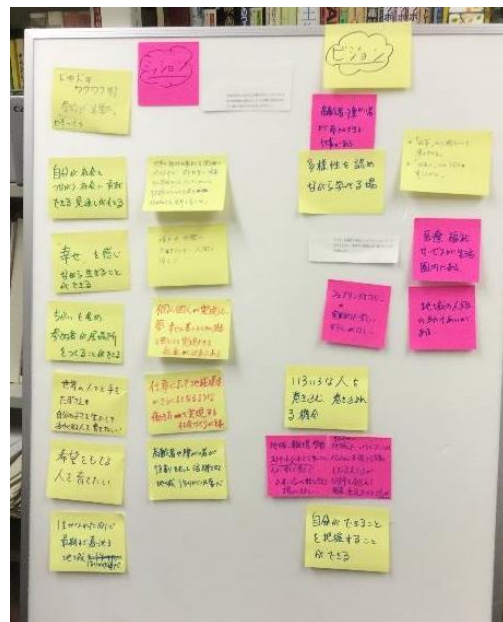
まず、ミッション(教材を何のために作るのか、なぜつくるのか)、ビジョン(教材の実践で何を実現したいのか)を参加者ひとりひとりが文章にしました。このプロセスが非常に重要だということが、あとあとよく分かりました。

つぎに、「フィールドワーク」というプロセスですが、師匠と弟子のペアになって、師匠が日々の教育実践の工夫について弟子が聞き取り調査を行います。もちろん、師匠と弟子というのはロールプレイですが、非常に役立つ知識が得られました。そして、自分たちの技術がはっきりしたところで、ビジョンのリストと技術(自分ができること)のリストを並べ、技術をビジョンに割り振っていきます。これが「技術の棚卸し」で、できないことや足りない技術が分かるというのですが、これは棚卸しのようにすっきりとはできませんでした。

この後、ビジョンを可能にするために具体的な技術を組み入れて検討した解決策(コンセプト)を考えるのですが、学習会ではすぐ次のプロセス「魔法のシナリオ」に移りました。これは、仮想ユーザー(生徒/学生)を設定、それも平均的ではなく極端な設定(名前・年齢・性格・口癖など)を詳細まで決め、指導案の授業展開に従って、教室に繰り広げられる光景(ストーリー)のシナリオを描くというものです。とくに、仮想生徒＝主人公の感情の移り変わりに注目して書きます。さらに、技術や社会関係の制約に縛られることなく、やりたいことは「魔法でできる」と考えて描くというのがポイントです。この極端な仮想ユーザーの視点に立って授業をイメージするというプロセスは、非常に新鮮でした。このような視点が新しい教材を作ることにつながると確信しました。そして、この魔法のシナリオを書く際に、最初のプロセスであるミッションが重要です。これがしっかり書けていると、シナリオを書く際に迷いがなくなると思います。

6月の学習会で取り上げた必要最小限の要素でプロトタイプをすばやく作るという考え方、そしてミッションをもとに、極端な生徒/学生の視点、特に感情に注目して授業(教材)をイメージするという考え方は、どちらも私にとってすこぶる刺激的なものでした。

(今回は、WEB会議システムを使って、宇品―江田島―大阪の三元中継で進行しました。パソコンやスマホなどを利用して簡単に映像―音声―文字などのやりとりが出来て驚きでした。今後も活用していければと思います。)



(文=富田和広)

「世界一大きな授業」を実施しました

2018年5月28日 サテライトキャンパスひろしま

ファシリテーター：中須賀裕幸，岩下康子

「世界一大きな授業」は2003年からはじまった教育キャンペーンです。「世界一大きな授業」は、「EFA (Education For All/万人のための教育)」という教育目標達成のために実施されていたものですが、2016年からはSDGsのゴール4を反映した内容となっています。教育は、SDGsに掲げられたその他の目標を達成するためにも必要なもので、ゴール4(教育)の達成はSDGs達成の鍵ともいえます。



今回は25名もの学生さんの参加を得て、世界の教育の現状を考えるさまざまなアクティビティを組み合わせたワークショップを展開しました。途上国の教育の現状を理解するための数字クイズ、文字が読めないとどんな困難が日常生活の中にあるかを考えるアクティビティ。

NGOの支援で教育を受けることのできたフィリピンの高校生の映像や、ノーベル平和賞を受賞したマララさんの国連でのスピーチの映像も見ました。

アクティビティの一つ「ちがいのちがい」では、「あってもいいちがい」と「あってはいけないちがい」をカードを見ながらグループで話し合いをして分類していくワークで、世界の課題とともに、身近な日本の課題も考えていきました。

今回は若い多くの学生さんに参加していただき、熱気あふれるワークショップとなりました。



2018.3.31. 県立広島大学(広島キャンパス)

ワークショップ「外国人労働者問題 ～技能実習制度から考える～」

ファシリテーター：岩下康子



近年、外国人技能実習制度に関する問題がクローズアップされるようになりました。今回は地元で外国人技能実習生を対象とする日本語教室を主宰され、実習生を取り巻く様々な問題に取り組んでおられる岩下さんのファシリテーションで、実際に岩下さんがかかわっている技能実習生さんたちを取り巻く問題

を考えるワークショップを行ないました。

在留資格の問題点や実習生管理団体の問題など、私たちが普段なかなか知り得なかった諸問題が提起され、まず知ることの大切さを痛感させられました。



「地球市民共育塾ひろしま」のご案内

Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)



■「地球市民共育塾ひろしま」(略称・共育塾)とは

Have a Dream. Do the Action! for the Better Future.

「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」…。取り扱うテーマも十人十色。世界の人々が一人ひとり幸せに生きられる。「地球市民共育塾ひろしま」は、そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。

地球市民共育塾ひろしまは、開発教育やESD(持続可能な開発のための教育)の学び合いを目的とした市民のグループとして、2005年5月に、学生中心の団体であった旧「地球市民共育塾ひがしひろしま」を改組して、「地球市民共育塾ひろしま」として設立、今日に至っています。

■開発教育とは

世界でおこっている貧困・飢餓、紛争・戦争、環境破壊、人権侵害といった問題は、日本の社会のあり方や私たちのライフスタイルとも深く関係しています。また日本にも同様の問題が存在しています。開発教育は、私たちひとりひとりが、このような世界のさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。開発教育では、学習者が自ら答えを見出していくプロセスを重要視し、そのためロールプレイ、ディベート、ランキング、フォト・ランゲージ、シミュレーションなどのようなワークショップ(参加型学習)と呼ばれる手法を用いています。地球市民共育塾ひろしまは、地域課題に根ざした参加型の開発教育教材の作成にも取り組んでいます。



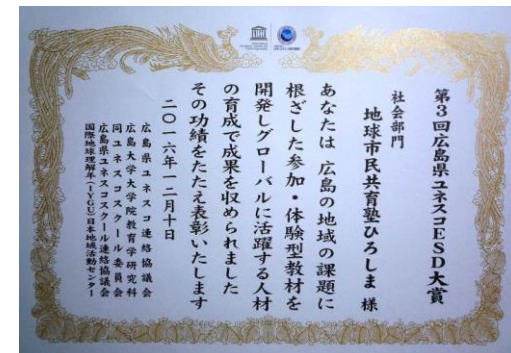
■広島県ユネスコESD大賞

地球市民共育塾ひろしまは、昨年2016年12月、これまでの活動を評価していただき、広島県ユネスコ連絡協議会主催の第3回広島県ユネスコESD大賞(社会部門)を受賞することができました。

■みなさんも参加してみませんか

共育塾では、教材づくり以外にも、連続講座の実施、「広島市まちづくり市民交流フェスタ」へのワークショップ企画参加、「広島市国際交流・協力の日」へのブース出展、他団体との協働事業などや、セミナー等への講師派遣なども行っています。また、共育塾ではメーリングリスト会員制度もあり、教職員、会社員、国際協力関係者、NGOや地域活動関係者、研究者、大学生・院生など多様なジャンルの方々100人以上に登録していただき、情報交換を行っています。

ご関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。



■役員 顧問：荒川純太郎(共生庵・地球市民共育塾共同主宰)

事務局代表：中須賀裕幸・服部淳子

教材づくり代表：富田和広・岡田祐一

■刊行物

- ・『地球市民共育塾ひろしま年次報告』(No.1~No.5)。
- ・『中国地区開発教育担い手連携・スキルアップ連続講座報告書』。
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』
- ・研究成果報告書『広島の開発教育・ESD』
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』

■ホームページ URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>

■メール: kyoikujuku.hiroshima@gmail.com

■問い合わせ先: 〒730-0036 広島市中区袋町 6番 36号

広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックスNo.7

